

のぐち たろう
野口太郎

素材 純粹なるがゆえに罪を犯して苦しむ若者

主題 戦争へと向かう世の中に抵抗する良心の葛藤 かっとう

人物 シテ 野口太郎

ワキ 聖徳太子

場面 今や此処なる野口明神境内 いま ここ のぐちみょうじんけいだい

〔囃子の中をシテが登場し一の松で次第と名乗りをし、地謡とともに正面に来て明神社に手を合わす〕

1 シテ (次第) 道に迷いし 人がおり、
道に迷いし 人がおり、 帰る道なく 悲しき。
みち まよ かね

(名乗り) これは世を憐みし蘇原野口の若者にて候。
2 地謡 富士の樹海を 彷徨いて 闇に落ちたる 魂は
いぬまむら ぎにゆうはち じゆかい さまよ やみ たましい

飯沼村の 喜入八が 東海道を 上りたる
跡を慕いて 故郷に 今漸くに 帰りたり。
いぬまむら ぎにゆうはち とうかいどう のぼ あと した ふるさと しようや なむのぐちだいまようじん

〔少し間をおいて、地謡とともに一の松に来ていたワキが名乗る〕
3 ワキ 「名乗り」 これなるは 大和飛鳥の 縁起にて
やしとあすか えんぎ

時と所を 超え来たる 止事もなき 霊にて 候。
〔地謡とともにワキ座に向かう〕
こ き やんごと れい そうろう

4 地謡 千々に乱れし 日の本は、 極悪人の 戦犯が
ちぢ ひもと ごくあくにん せんぱん

てき みくに うりわた いくさじたく
敵に御国を 売渡し、 戦支度を 始めると、

きこ さまこと いか
聞こゆることが 真なら 怒るがゆえに 今ここに、
ほう さかん いた じくう まか こ
法を隆んに 致さんと 時空を超えて 罷り越し。

〔囃子に乗って、シテは正面に進んで静かに語る〕

5 シテ やみ ここち めいど
闇の静けさ 心地よく 冥途の旅に いざ立たん。

6 地謡 おか つみ ねはん ゆ
犯した罪は 深けれど 涅槃の国に 往くならば

ゆき きよ はちす ささ
雪のごとくに 清められ 蓮のごとく 花と咲く。

〔ワキは背後からシテに待ったをかける〕

7 ワキ ま わか ふか さと
待たれよそこなうら若く、 悲しみ深き 聡き人。

8 地謡 し す やす
死して済ますは 易けれど、それで済まして

よいものか。この世の地獄に 身を浸し、 業の報いを

と りんね げだつ
受け止めて、 輪廻を苦しみ 味わえば 解脱の道が

み
見えてくる。

9 シテ いまさら がみ かた
今更に 後ろ髪引く その方は どのどなたと

おお
仰せらる。

10 ワキ うまやど とよとみみ ひと よ とぎ
厩戸の 豊聡耳と 人の呼ぶ。 時の無き世の 住人じゃ。

11 シテ その昔 しんらんさま まくらべ かた もう
親鸞様の 枕辺に 立たれしお方と 申されるか。

12 ワキ いか
如何にもそなたの言う通り。

ゆいま しやうまん ほけきやう さんきようぎそ と
維摩・勝鬘・法華経の 三経義疏を 説きし者なり。

13 シテ けんぼう わ と
憲法の 十七条を 定められ 和を尊しと 説きし方。

14 ワキ いか
如何にもそなたの言う通り。

15 地謡 その三倍が 貞永の名月と呼ぶ 式目で、

その六倍の 百二箇条、昭和に昇る 憲法の
和を極めたる 第九条、大和心の 精華にて
世界に誇る 宝物。

16 ワキ その九条が 壊されて、 誉の高い 神国が、
普通の国に 墮落する、 浅まし過ぎる 時勢かな。

〔シテはワキに待ったをかける〕

17 シテ お待ちください 今暫し。

18 地謡 戦を求めず 武器を棄て、平和を求め 其の心、
尊き事とは 思えども、もしわが国が 攻められて
領土と主権を 侵されて、 民が奴隷に される時、
軍備無くして どのように 国を守れと 仰せらる。

〔丁々発止の論議が始まる。反時計回りに廻って、ワキが正面に向き、シテ
がワキ座に来る〕

19 ワキ 軍備で国が 守れるか？ 軍備で国が 滅ぶのじゃ！

20 地謡 軍備の拡大 競い合い、やがて制御も できぬまま、
自滅していく 運命は 軍国主義の 末路なり。

〔反時計回りに廻って、シテが正面に向き、ワキがワキ座に帰る〕

21 シテ それは分かって おりますが、もし日本が 攻められて
自衛隊が 無かったら 誰が国を 守ります？

〔シテ・ワキが真横に向き合う〕

22 ワキ その「もし」で 自衛隊が 肥え太り
今や他国を 侵略し 戦支度を 始めけり。

23 地謡 国を守ると 偽りて 他国を攻めて 人殺し。
人道援助と 偽りて 武器を運んで 人殺し。

怨みを買いて 復讐の テロの嵐が 吹き荒れる。

〔地謡とともに反時計回りに廻ってシテとワキが位置を変える。以下、同様に巴となって回転しながら熱き問答を闘わせる〕

24 シテ その逆さやぐに どこかの国が 攻めてきて

我らの国を 奪うとき 我らの命を 守るには、
自衛隊しか ありません。

25 ワキ 金を払えば 軍隊が 守ってくれると 思うのか！

金を払えば 米軍が 守ってくれれば 語るのか。

26 地謡 虫のよすぎる その思い、やがて我らを 墮落させ
軍の奴隷に 貶めて、ついに自由を 奪われる。

〔囃子、親が子供を諭すようにしみじみと〕

天の定めた 永遠の 真理に照らして 語るなら、

己の命を 守るのは、ただ己しか あり得ない。

汗と涙と 血を流し 己みずから 守るのみ。

〔囃子、性急に〕

27 シテ 自衛隊こそ そのための 己を守る 力なり。

竹槍で 我らの国は 守れません！

〔ここが頂点となる。囃子は毅然として舞台は緊張する〕

28 ワキ 原爆で 人の命が 守れるか？

核戦争が 始まれば、敵も味方も なかりけり！

29 地謡 軍隊が 己を守る 力とは 狂気の沙汰と 気付くべし。

神の建てたる 日の本の 神が選えらびし その民が、

天より授かる 九条を、 守りて世界を 導みちびきて

世界の人の 目を覚まし、 正しき法を 打ち建てよ。

30 シテ お言葉ながら 九条で われらの国は 守れませぬ。

国は命の 基にて、 国ありてこそ 人はある。

31 ワキ 愚かなことを 言うでない。 人ありてこそ 国はある！

32 地謡 この世に国が できる前、 人は平和に 暮らしおり、

この世に国が できた後 人は戦を 始めけり。

この世に国が ある限り、 自分勝手な 屁理屈で

国益かぎして 争いて、 自然破壊を 省みず。

自衛のためと 偽りて、 侵略戦争 始めけり。

〔癡子が激しくたたみかけ、やがてゆっくり語りきかせるように〕

この世の国を 乗り越えよ、 国家を超えて 人類が

やがて一つに まとまれば、 戦なき世が おとずれて、

人は豊かに 生きられる。

〔癡子が力強く、確信を持って説くごとく〕

33 ワキ 真理の力を 信頼し、 世界に道理を 説き広め

世界政府を 打ち建てて 戦なき世を 作るべし。

34 シテ 国家を超えた その先に 世界政府を 作るなら、

まさに戦は 無くなりて 軍備はもはや 不要なり。

35 地謡 目から鱗が 今落ちて、 漸く合点が いきにけり。

卑しき国益 乗り越えて、 世界を一つに するために、

軍備に頼らず 助け合い、 調和と創造 目指すべし。

36 シテ そのために 大和心の 九条を、

命を懸けて 守ること、 それが己の 命と知る。

37 ワキ その通り それがそなたの 使命なり。

38 地謡 そのために、成さねばならぬ ことがある。

この日の本の内において 大和心の九条の
破壊を企む者どもに 開悟の引導 渡すべし。

その名を呼べば 改憲論、戦を好む 獣の、
自主憲法の 企みは 国を亡ぼす 悪の道。

武器と特権 持つものは 虎のごとくに 民を喰う。

39 ワキカを合わせて 害ぐべし 虎の目と その心。

40 シテ とはいえど 私一人で 何としよう。

41 ワキ 野口太郎を 頼むがよい。 野口は国の 真秀場ぞ。

42 シテ 何処に在す その方は…

43 ワキ 私が目の前の その人じや。

44 シテ おお…。私如きの 若輩に、 恐れ多くも 畏くも、
誉や高き そのお名を 名のる権利は ございませぬ。

45 ワキ そんな権利は 誰にもない。ここに言えるは ただ一つ。
野口太郎は 志。 野口の人 の 義務と知れ。

46 地謡 そんな権利は 誰にもない。 全ての人の 義務と知れ。
風雲急を 告げる今、 国を売りたる 戦犯が、

武威を加えて 朝鮮に 兵糧攻めを 駆けにけり。
飢えと寒さと 悲しみで、 罪なき人が 死んでゆく。

〔囃子が風雲急を告げる〕

野口の宮に 日が出ずる。 木漏れ日落ちる その庭に、
汚れた霧が 立ち込めて ご神木まで 枯れにけり。

もはや我らに 一刻の 猶予もならぬ 時が来た。

47 ワキ 野口太郎よ 立ち上がり、無益な戦を 終わらせよ！

48 シテ 心得まして ございます。

〔シテ、正面に仁王立ちして九字を切る〕

ノウマクサンマンダ バザラダンセンダ マカロシヤダ
ソワタヤ ウン タラタ カン マン

りん びよう どう しゃ かい じん れつ さい ぜん
臨・兵・闘・者・皆・陳・烈・在・前。

オン キリキヤラ ハラハラ フタラン バソツ ソワカ

〔ワキ、明神社に向かって南無野口大明神、正面に向かって天を仰ぎ南無野
口大菩薩と祈る〕

49 ワキ 南無野口大明神 野口太郎に ご加護あれ！

南無野口大菩薩 野口の民に ご慈悲あれ！

〔地謡とともにシテとワキが橋掛かりを帰る〕

50 地謡 蘇原野口の子供らよ 野口太郎を 名のるがよい。

非道の力に 屈せずに 弱きものを 慈しみ、

大きな苦難を 受け止めて、 正しき道を 歩むなら、

神通力が 目を覚まし、 強く賢い 人となる。

慈悲と正義を 貫ける 志こそ 尊けれ。

戦なき世を 目指したる お獅子様の 教えなり。

完

飯沼 利良 伝
寺田 誠知 記